

東大和南 高等学校 令和7年度（3学年用）教科 家庭 科目 保育基礎

教科：家庭 科目：保育基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 選択者

教科担当者：上小牧千絵

使用教科書：（家庭707 保育基礎（実教出版））

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

科目 保育基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	1章 子どもの保育 ・保育の意義と重要性について保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ・保育者にはどのような資質が求められるか、どのように見つけたらよいかなど保育者観についての考察を深める。 ・家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場の保育環境の特徴や役割を理解する。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。	1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境	【知識・技能】 ・乳幼児期は心やからだの基礎を築く大切な時期であることを十分に理解している。 ・保育者に求められる役割や関わり方のポイントを十分理解している。 ・子どもや家庭をとりまく保育環境やその課題について十分理解している。 【思考・判断・表現】 子どもがどういったことを身につけていくかなど、乳幼児期の体験の重要性に気づくことができる。 ・保育者としての子どもとの適切な関わり方について考察することができる。 ・保育環境やその課題について、社会的背景などと関連づけて考察することができる。	○	○		6
	2章 子どもの発達 ・乳幼児期は人の発育、発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。 ・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。 ・心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。 ・知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達をとらえる。	1 子どもの発達の特徴 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達	【知識・技能】 ・子どもの発達は、運動や感覚、心の発達などが関連し合っており、その特性について十分理解している。 ・子どもの身体の発達過程や生理的特徴について十分理解している。 ・乳幼児期の愛着関係の形成は人の発達にとってとても重要であることを十分理解している。 【思考・判断・表現】 ・愛着関係形成のための大人の適切な関わり方について考察ができています。	○	○		15
	子どもとかわかってみよう（保育実習） ・実際に子どもと触れあう機会や保育の様子を観察などを通じて、子どものものの見方や感じ方、子どもとの適切な関わり方など、保育への理解を深める。	子どもとかわかってみよう（保育実習）	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・保育実習において安全に配慮し、子どもと適切にかかわったり観察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実習に積極的に取り組んでいる。 ・保育実習の記録をまとめ、成果を発表することができる。	○	○	○	2
	定期考査			○	○	○	1

